

本手引きの位置づけ

近年頻発する集中豪雨(超過降雨)に対し、緊急かつ効率的に浸水被害の軽減を図るためには、住民の自助を促進することにより、被害の最小化を図ることが重要であり、そのためには、ソフト対策として、住民の視点からのわかりやすい情報発信を行うことが必要

【内水による浸水】 河川の破堤や溢水による浸水に対して発生頻度が高く、水害被害額も同程度
市民生活・企業活動に密接な関わりを持ち、住民の関心が高い



ソフト対策として内水による浸水に関する情報及び避難に関する情報等を積極的に住民に提供し、平常時からの住民の自助意識・防災意識の醸成を図ることができる「内水ハザードマップ」の作成・公表を促進すべき

本手引きの特徴

本手引きは、はじめて「内水ハザードマップ」の作成手法等を具体的にとりまとめたもの
内水ハザードマップの必要性、機能や対象とする浸水シナリオの考え方を整理
地域の特性に応じて、記載すべき項目が抽出できるような事例とともに解説
内水による浸水の避難に関する考え方や配慮すべき事項を整理
その他、内水ハザードマップ作成に参考となる事例を多数紹介

(見開き) 共通項目で構成

内水浸水想定区域図設定の対象降雨

避難場所

浸水シナリオ

放流先河川等の水位条件

リアルタイム気象情報の入手先

内水浸水想定区域図

- ・浸水範囲、浸水深
- ・避難時危険箇所
- ・過去の浸水履歴
- ・ポンプ施設位置

避難時の留意事項

浸水情報等の伝達経路

地下街等の浸水対策

自助(簡易水防工法等)

災害時の心得や浸水への備え 問合せ先など

表紙

(表・裏) 地域項目で構成

本手引きで作成した内水ハザードマップの見本(A4三つ折り)

内水ハザードマップ作成の手引き(案)の概要

国土交通省都市・地域整備局下水道部

内水ハザードマップが対象とする浸水シナリオ

内水ハザードマップが対象とする浸水シナリオは、主に以下の から が該当する。実際の浸水現象は、時間の経過とともに、 から 、 から に移行する場合もある。

浸水シナリオ	対象ハザードマップ	降雨の状況		外水位の影響
		河川中上流	下水道排水区域	
	内水	小雨	大雨	無
		<大雨	小雨	有
		<大雨	大雨	有
	洪水 (内水)	大雨	小雨	有
		大雨	大雨	有

大雨：下水道及び河川の雨水排水能力を上回る降雨

〔シナリオ : 内水ハザードマップの対象〕



下水道の雨水排水能力を上回る降雨による浸水

〔シナリオ : 内水ハザードマップの対象〕



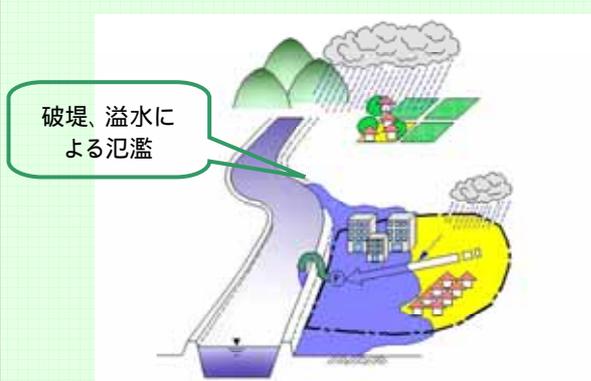
下水道の雨水排水能力以下の降雨であるが、河川へ放流できないことによる浸水

〔シナリオ : 内水ハザードマップの対象〕



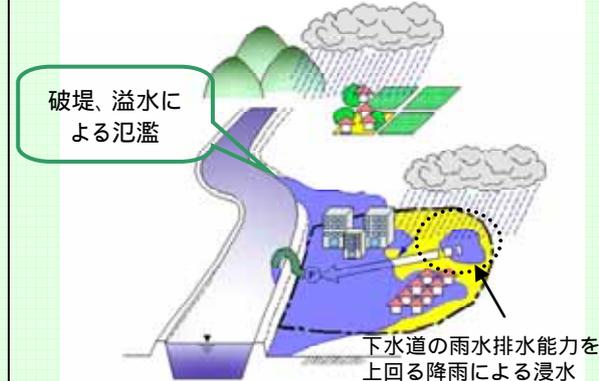
下水道の雨水排水能力を上回る降雨による浸水と、河川へ放流できないことによる浸水

〔シナリオ : 洪水ハザードマップの対象〕



下水道の雨水排水能力以下の降雨であるが、破堤や溢水による浸水

〔シナリオ : 洪水ハザードマップの対象〕



下水道の雨水排水能力を上回る降雨による浸水と、破堤や溢水による浸水

【留意事項】 内水ハザードマップは、一定の仮定に基づいた浸水シナリオにより内水浸水想定区域を設定したものであり、実際の浸水発生現象とは異なる。

リアルタイムの情報提供を行い、住民に求めるべき自助活動を的確に誘導することが重要
洪水ハザードマップとの関連性が住民に十分理解され、適正に活用されるよう努める

内水ハザードマップ作成の手引き(案)の概要

国土交通省都市・地域整備局下水道部

本手引きの主な内容

第1章 総説

・内水ハザードマップの定義、対象とする浸水、作成の必要性等について解説

【内水による浸水】

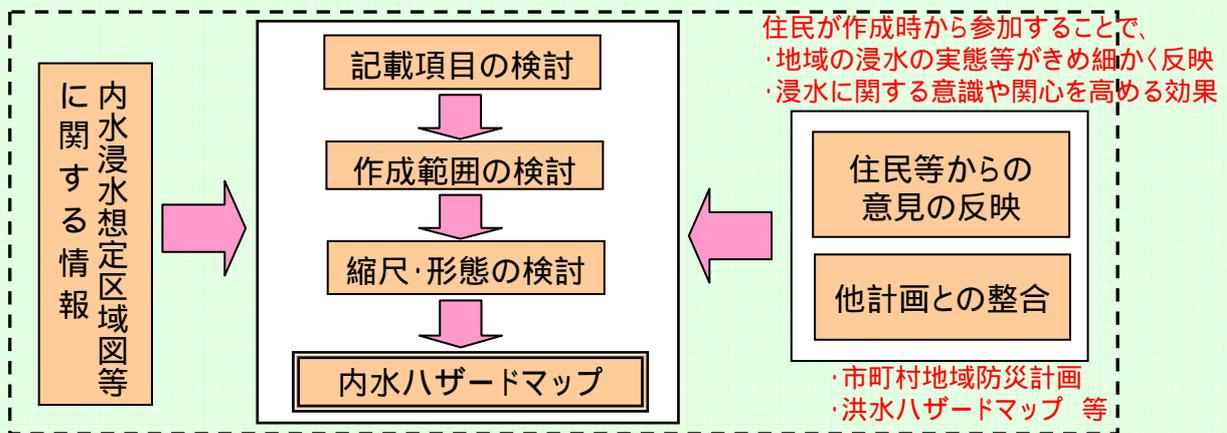
河川の破堤や溢水による浸水に対して**発生頻度が高く、水害被害額も同程度**
市民生活・企業活動に密接な関わりを持ち、**住民の関心が高い**

第2章 内水浸水想定区域図の作成

・内水浸水想定区域図の標準的な作成手順や留意点を整理

第3章 内水ハザードマップの作成

・内水ハザードマップは内水浸水想定区域図を基本資料として、関係部局が連携を図りながら作成



【記載項目】 共通項目と地域項目に分類して解説

共通項目・・・内水ハザードマップに記載する**必要最小限**の記載項目

浸水に関する情報・・・内水浸水想定区域図、浸水シナリオ等

避難に関する情報・・・避難場所、避難時危険箇所等

避難に関する考え方や配慮事項について整理

地域項目・・・**地域特性に応じた**浸水時の情報、浸水を予防するのに役立つ情報等の記載項目

災害時活用情報・・・過去の浸水実績、地下街・地下室等の情報等

自助に関する記述を充実

災害予防情報・・・適正な土地利用への誘導、貯留・浸透施設の設置に関する事項等

災害学習情報・・・水害発生のメカニズム、地形と氾濫形態、下水道の役割等

第4章 内水ハザードマップの公表

・内水ハザードマップが有効に活用されるよう公表方法を十分工夫

【留意事項】

住民説明会等、様々な機会でも、**継続的に**内水ハザードマップの普及及び理解の促進に努める
リアルタイムの情報提供を行い、住民に求めるべき自助活動を的確に誘導することが重要
洪水ハザードマップとの関連性が住民に十分理解され、適正に活用されるよう努める

第5章 記載内容の更新

・内水浸水想定区域の変更やその他記載内容の変更状況、洪水ハザードマップの作成状況等を勘案し、適切に見直しを行う

事例集

・内水ハザードマップを作成するうえで参考となる記載項目等を事例集として提示